

第3回議会

総務文教委員会

一般質問

広報のあり方について

●広報まつばら・ホームページ等

問 ホームページは、松原市以外の居住者も見られるもので、松原市の宣伝手段としておおいに活用すべきである。各担当課が連携し、見る人に合わせて子育て施策や高齢者施策等々もっと見やすく、わかり易いものにすべきでは。

答 来年1月にリニューアルの予定でこれを機に情報整理し、見直しを進めていく。

要望 広報まつばら、とも連動させて、多くの方に必要な情報を即座に提供し、プリントアウトして必要な方に周知できるように。

※例神奈川県大和市 防災手帳のように

第3回議会

個人質問

住みたい! 住み続けたい! まち松原をめざして!!



1、子育て支援について

(1)子ども・子育て会議の設置について

問 子ども・子育て支援事業計画策定にあたり、会議の設置は、重要なものであることから構成委員、ニーズ調査の実施等今後のスケジュールについて問う。

答 子ども・子育て会議の委員は、現在、子育て中の保護者、民生児童委員、事業主、子ども・子育て支援事業者など、学識経験者を含めて10名で構成。10月に事業計画策定の基礎となるニーズ調査を実施する。

問 ニーズ調査の取り組みについてはどのように考えているのか。

松原がんばる市民応援事業について

問 平成22年11月から始まった事業で市民の方々に喜んで頂いている事業であるが、年々対象者は増加し、寄付金については、減少傾向にある。今後も恒久的な制度として、維持継続していくための方向性について。

答 支出状況等の検証をし、一定の見直しを図る時期にきているがスケールの小さいものにするのではなく、事業の維持継続を図るため検討していく。

問 大会等の結果、「凱旋パレード」等市民の皆さんと一緒に祝い事ができれば松原市のアピールにもなるのではないかな。

答 昨年、阪南大学サッカー部が総理大臣杯で優勝、全国1位になった際は「横断幕」を作成し、庁舎の正面玄関に掲げた。今後、制度のPR、市自体の宣伝に繋がる「お祝い」の方法等考えていきたい。

答 市内全域からの抽出により、就学前児童1800件、就学児童、小学校3年生まで1000件、郵送にて依頼予定。妊娠中の方200名の方については、面接による実施を検討。

問 事業計画の基本となるニーズ調査である。より多くの方のご意見を聴くことが重要。アンケートの回収についての取り組みは。

答 返送期限後にお礼を兼ねた文書を郵送し、アンケート返送の勧奨とする。

問 子ども・子育て会議の委員とスケジュールについて。

答 11月に保護者委員の公募、選考、12月に全ての委員の選任をした後、来年1月から子ども・子育て会議を開催し、実施計画の策定を進めていく。26年度からは前半の計画についての都道府県の協議、パブリックコメントの実施後、計画策定の予定。

(2)保育施策について

問 第1、第3保育所における今後の保育環境と建て替えについて。

答 年度途中においても限りなく待機児がゼロとなるよう対策を講じている。今後の子育て支援施策として、在宅で子育てをしている保護者の孤立感や子育てに関する不安感・負担感を軽減し、支援するため、第1保育所・第3保育所の児童を第1保育所に統合し、第3保育所の場所に、地域子育て拠点となる支援センターと年間を通じて待機児ゼロを目指すため保育ニーズの高い0歳から2歳までの保育所を公立で建設し運営していく。

2、高齢者対策について

(1)介護予防システムについて

問 年々、高齢化が進むなか健康寿命をのばし、住み慣れた地域で生活して頂ける本市独自の介護予防システムの構築が必要と考える。大阪府下の3市がすでに実施している介護支援ボランティアポイント制度の状況について。

答 吹田市、寝屋川市、泉佐野市の3市で実施。65歳以上の方でボランティア登録。活動として1回1時間程度で100円、1ポイントで換算。1日の限度は2ポイント、200円で年間上限5000円程度。活動内容は、話し相手、朗読、傾聴、趣味による交流、指導、配膳、洗濯物の整理、掃除等や施設の行事の手伝い等身体介護を除くものとなっている。ポイントは換金でき使える。

問 この制度は地域支援事業の交付金を財源としているが市の負担はどうか。

答 市としての負担は、12.5%

問 国の財源を生かした、支援するボランティアにも支援される方にも喜ばれている制度の検討をすべきではないか。

答 (仮称)元希者センターの論議も進め、高齢者が益々元気になるようシステムづくりについて研究していく。

(2)閉じこもり予防対策について

問 高齢者人口の増加や高齢者の閉じこもり予防にも市内循環バスぐるりん号は市民の足として市民ニーズが高い。高齢者は基より障がい者、妊婦さん、乳幼児を抱えるお母さんにも利用されている。最近、満員で乗車出来ないケースがあり、改善の要望があるが対策はどうか。

答 ぐるりん号については、平成11年から公共施設循環バスとして、市民の社会参加の促進と福祉の充実を目的に運行。特に障がい者及び高齢者の優先的利用を条件に免許を取得し運営している。一定の限度があり範囲内での利用をお願いしたい。

問 当初の取り組みから高齢化が進み、利用者が増えた今、拡充をするための方策はないのか。

答 自治体において、市の自家用車で無償の施設循環バスから一般乗り合い旅客自動車運送事業の免許で乗り合いバスという形での運行が多くなっている。本市における地域交通環境を踏まえ、今後、事業バス関係事業者さんとも協議し考える時期がきている。

問 堺市では、65歳以上の方を対象に100円で乗れるお出かけ応援バスが運行されている。ぐるりん号も100円払うので便利にしてほし

いとんの要望があるがどうか。

答 有償で運送が認められるのは、運送事業者が対応出来ないという場合で、かつ、バス協議会等により、その関係者の合意があった場合に限る。さらに、地域公共交通会議の許可が必要である。

要望 利用者も多くなっているのサービス向上に向けた早い時期での検討を

(3)居宅高齢者の見守りについて

問 高齢者が悪徳商法の被害者となるケースが増えているなか、被害を未然に防ぐ手立てが必要では。

答 老人クラブにおいて、独居や寝たきりの高齢者を月に1、2回定期的な家庭訪問の実施、社会福祉協議会の高齢者見守りチーム(4ヵ所)と包括支援センターも参加しての訪問、個別相談を実施している。

要望 隣近所の身近な一人が一人に声かけが出来る地域のつながりを持てるまちづくりを

3、まちづくりについて

(1)都市計画道路新堂南線の進捗状況と西大塚地域における施設整備について

問 新堂南線新設事業の進捗状況はどうか。

答 平成23年度に大阪府の事業認可を受け、27年度末の完成を目指し、現在、大阪中央環状線から大塚青少年運動広場までの区間について、事業用地の取得に努めている。現在50%程度の用地確保ができています。

問 羽曳野市との連携はどうか。

答 事業着手以前の計画段階から協議を進め、十分な調整をしている。羽曳野市の施工時期は、本市の完成時期に合わせ、平成26年、27年を予定している。

問 地域の方々への事業の説明はどうするか。

答 来年度からの事業、工事予定であるので、出来る限り早い時期に地元町会を通じて説明会を開き、十分に理解して頂けるようにする。

問 西大塚地域における教育委員会所轄の施設についての方向性は。

答 道路整備と併せ、青少年運動広場については、より多くの市民に利用して頂ける施設として検討を進める。地域の高齢者の方々に對して施設を活用できればと考えている。